

## 「求む新鮮力―道内大学アメフト部の新勸作戦」⑦釧路公立大

### 入学式前から声かけ

昨季、創部34年目で初めて道学生選手権1部の舞台に挑んだ釧路公立大アメリカンフットボール部。順位戦の室蘭工業大戦で1部初勝利を挙げ、見事に1部残留も決めた。昨年以上の成績を―と意気込む1部2年目の今季。戦力アップに欠かせない新入部員勧誘作戦は、入学式前から始まった。

先輩5人が抜けた今年のチームは、選手が4年生3人、3年生5人、2年生8人の計16人とスタッフが6人。新戦力の獲得目標は選手10人、スタッフ5人。新入生勧誘担当の山口響生君（2年）は「スクリメージ練習をするためには22人が必要」と2ヶタ勧誘の狙いを説明する。

4月7日の入学式を前に、5、6の両日、新入生の身体測定と各クラブが集まる新入生歓迎会が学内で開かれた。アメフト部は入念に用意した「包囲網」で新入生を待ち構えた。まずは身体測定会場に女性スタッフをアルバイトとして潜り込ませ、大学にアメフト部があることを新入生に耳打ち。身体測定会場の外には「案内係」が待機。新入生を隣接する歓迎会場へ導いた。案内がてら言葉を交わし、連絡先を聞き出すのが最大の任務だ。会場内では「盛り上げ係」が新入生たちの緊張をほぐしながらコミュニケーションを深めた。歓迎会後は再び新入生に声をかけ、今度はアメフト部員が案内する学校見学会。見学の合間に「優しくて親切な先輩たち」がアメフト部の練習時間を紹介し、食事の約束も取り付けた。

8、9日のオリエンテーションの日には、夕方からタッチフットの体験会を開いた。初日、2日目とも20人ほどの新入生が会場に集まり、「関心が高かった」と山口君らを喜ばせた。タッチフットの後はもちろん食事作戦。参加者を2、3人ずつ組み分けし、部員たちがなじみの中華料理店やハンバーグ店に誘い、大学生活のノウハウを伝授し、アメフト部もPRした。山口君は「公立大は道外出身者が多いので不安も多い。どんな疑問にも答えてあげる。アメフトは最後にちょっとだけ。『大学から始められる』がキーワードです」と言う。

悲願の昇格を果たした「1部」ブランドも、新入生勧誘の強力な武器になった。山口君は「公立大で全道1部はバスケットボール部とアメフト部だけ。やりがいもPRする」という。作戦が実り、4月中に選手8人、女子スタッフ4人が入部し、1年生練習も始まった。山口君は「1年生も戦力。早くアメフトに慣れてもらい、一緒に戦いたい」と熱い期待を寄せている。



先輩部員の指導を受けながら早速練習を始めた新入部員たち